



絵・文 菅谷 幸則

中国大陸紀行(十)  
二〇〇七年



宮崎県版  
No. 346

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
宮崎県本部  
〒880-0031  
宮崎市船塚 3-193  
電話 0985(26)4224  
FAX 0985(20)3154  
郵便振替口座  
02070-9-11382

ここ麗江に住んでいる纳西族の祖先は北方から移住してきたと言われるが、彼らは「東巴文字」という纳西族特有の絵文字を持っている。その文字で書かれた東巴経（千年前に編集された百科辞典の様なもの）、東巴舞といわれる民族舞踊、壁画に遺された纳西画等「東巴文化」と言われる高度の民族文化を有する民族であった。長い歴史の中で自然への崇拜を民族の英知によって表現し発展させてきたと言われている。2006年に麗江に旅したとき、現在も「東巴文字」を書く王様がいるということで早速見学に行った。このスケッチはその王様が

— 今でも使っている象形文字 —

が住んでいる家で「東巴宮」と書かれた看板、そして入口の屋根には「東巴文字」で書かれた大きな絵文字の看板があった。

我々も記念になるものを何か書いてもらおうと交渉。私は「一期一会」という文字を書いてもらった。もちろん私の氏名も含めてである。灰色の分厚い和紙（幅25cm、長さ50cmくらい）である。「東巴」とは、元々纳西族の言葉では「知恵ある者」という意味だ。それが転じて宗教的儀式を司る祈祷師を指すようになったといわれている。ここの王様も宗教的儀式を司る纳西族の支柱であり祈祷師を兼ねた王様なのだろう。

### 私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対すること
- 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めること
- 三、国は治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと

相川勝六（戦前第2代宮崎県知事、戦後県選出国會議員）

について(22) 野崎 眞公

岸田政権はいつたい何を考えているのか。与党政権の腐臭さはもはや政治と言えまい。金権腐敗にどっぷりと浸かつてきた歴史をもう忘れたというのだろうか。「汚職の構造」と揶揄され、その都度反省しますと何度繰り返してきたか。「嘘が」堂々と罷り通る時代に未来はないことを、個々の政治家は心胆から考え直してもらいたい。

▲前回(21)で、

「叙勲」制について述べたが、今回は、「建国記念日」（二月十一日）設定の経過、その意義について述べてみたいと思います。「建国記念日」がなぜ求められたのか。その政治的意図はなにか。「紀元節」の廃止について…敗戦直後の1946（昭和21）年二月十一日は「紀元節」ということで、学校・官庁、会社は休み。

特別な行事はなかった。しかし、ニュース映画で「紀元節」が虚偽の祝日であったと放映したことが社会的な反響を呼んだ。翌年の1947年も同様であったが、この年の十二月五日、片山内閣は閣議で、祝祭日を政令で決めて十五日ごろ公布したいと決定。

▲翌日、衆参両院の文化委員会合同の審議を要請した。これに衆参両院は、国民の思想・生活に及ぼす影響が重大であるとして政令ではなく、法律で決定すべきであると、また、十分審議すべきであると譲らなかった。とこ

ろが、GHQが「紀元節」は超国家主義・軍国主義の象徴であったことを知り、1948年の紀元節の前に祝祭日の改廃を支持。「GHQは、従来の祝祭日が皇室中心・国家神道との関係を察知し、1945年12月15日の「神道令」・国家と神道との分離を指令していた」。

▲GHQの圧力もあり、政府と両院の関係者で検討された改正方針も旧態依然としており、行きづまっていた。48年の1、2月に内閣が「世論調査」を実施した。結果は、「新年」「天皇陛下の誕生日」に次いで「建国記念の日」（実は紀元節）が第三位で、80.1%を得た。「調査は、

六千人を対象、三十の祝祭日から十二を選ばせた結果である。敗戦後の状況からすれば当然の結果であったと思われる」。▲こうした世論の動向を見ながら、両院委員会では慎重審議を続けたが、一番の議論は、「紀元節」または、それに変わる名称の日を入れるかどうかであった。民主自由党側の委員や保守的な立場の委員は、「紀元節」存続論で一致。社会党や、参議院文化委員の山本有二・丹羽五郎・金子祥文などの文化人の委員は廃止論を強調した。また、参院側は「建国の日」という日はなくても良いという説とぜひ置きたいという二説ある」こと、衆院側は「名称はいろいろあるが、いちおう残しておきたい。二月十一日は検討を要するであろう」と報告しあった。

▲五月二十八日、参議院文化委員会主催でGHQのバーンズ宗教課長との懇談会が開催された。バーンズは「二月十一日」という日と「紀元節」という名称には反対で



あるが、「建国の日」「建国記念日」は良しとしても、具體的な日にちが示されないと意見はいえないと。▲その後の審議は、「建国の日」、または「建国記念日」としたらいかがいのかに絞られた。その間にも、「紀元節」存続論者、「廃止論」者の激論は続いたが、結局、日にちを定めるのは困難として終結。こうした状況をへて、「紀元節」やそれにかわる日も含まない法案「国民の祝日に関する法律」が7月4日に上程され、7月20日両院を通過し成立、公布・施行されたのである。

こうして「紀元節」は廃止となったが、これで「紀元節」問題が終息したのではない。

以上、次号へつづく

### 『小林多喜二と志賀直哉』

南 邦和

庭梅（にわうめ）



二月二十日は作家小林多喜二の命日である。今年は没後九十一年目にあたる。「蟹工船」や「党生活者」などの作品で知られるプロレタリア作家小林多喜二が、「治安維持法」下の昭和八年東京の路上で特高警察によって検挙されたのはこの春浅い季節。築地署に連行され、その日のうちに陰惨きわまりない「特高流」の拷問によって虐殺されている。二十九歳四ヶ月の生涯であった。

この時代の世情は、私たちが先年取り組んだ自主製作映画「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯」でもリアルな映像で描かれている。この昭和八年（一九三三）という年は「治安維持法」という悪法が、最も巧妙かつ悪辣に発揮された年であり、全国的におびただしい検束者を出している。またこの年文部大臣鳩山一郎によつて京都大学瀧川幸辰教授が罷免されるという「瀧川事件」が起こっている。私自身が生まれたのもこの年である。（すでに〈卒寿〉に達している）

小林多喜二は明治三十六年（一九〇三）秋田県の貧農の子として生まれているが、幼少の頃生活の手立てを求めた両親と共に北海道に移住。小樽で少年時代を過ごし、伯父の経営するパン工場で働きながら苦学。小樽高商を卒業後北海道拓殖銀行小樽支店に勤務。この頃から同人雑誌「クラルテ」の編集者として本格的な作家活動に入つてゆく。すでに学生時代からマルクス・レーニン主義の洗礼をうけていた多喜二は、この時代の潮流であったプロレタリア芸術運動の「旗手」として注目されてゆくのである。

さて、私は年頭の一月中旬から流行おくれのコロナ（第10波といわれる）に見舞われ、二週間ほど寝込んでいた。その病床のつれづれに久しく手にしなかった作家たちの本を書架から引き出す時間的な余裕が生まれ、たまたま手にした本が小林多喜二著「蟹工船・塔生活者」志賀直哉著「暗夜行路」である。（勿論この他にも写真集「ロシ



ア1917「牧野富太郎の植物図鑑」画報「近大百年史」など、眼を楽しませる退屈しのぎの本を手にかけている。

「小僧の神様」や「城の崎にて」の著者として教科書にも採用されている「小説の神様」志賀直哉の「暗夜行路」は、若い頃退屈な長編小説という印象で格別の感銘もうけなかったが、作家の苦悩とその時代相に触れ、改めて「小説」の奥深さを味わった。しかし「非合法下」での生と死を賭けた多喜二の作家活動に較べると、なんとお気楽な「高等遊民」（直哉は学習院出身、東京帝国大学中退の小説家）としての日常であることかと、その環境と作風の隔たりに気付かされた。

この志賀直哉と小林多喜二の接点が、直哉の年譜「昭和6年11月小林多喜二訪問」の一行である。この頃、奈良市高畑に新築して間もない志賀邸を多喜二が訪れてい

## 『川柳』

☆ 暗黒の 歴史ふたたび 許すまじ

☆ 昭和史に コバヤシタキジ 生きている

☆ 弾圧の 予感漂う この乱世

半球

## 急 告

### 署名へのご協力を！

会員のみなさま

私たち国賠同盟の主たる活動である、“治安維持法犠牲者への国家賠償を要求”する請願を5月初めに届けます。

1000筆以上を目指し行動しておりますが、現在は467筆にとどまっております。

そこで、まず、会員の皆様からの署名をぜひともいただきたく思います。

お一人でも、できればご家族やお知り合いにもお声をかけていただき、同封の封筒にてご返送くださいますよう、切にお願い申し上げます。

る。直哉48歳多喜二27歳の頃である。その後もこの二人の作家は文通を続けている。多喜二虐殺の報に接した直哉は「実に不愉快。アンタンたる気持になる。不図（ふと）彼等の意図ものになるべしという気する・・・」と、その日の日記に書きつけている。その後、直哉は多喜二の母に悔やみの手紙に添えて香典を送っている。